

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有、実践している。	●		毎年開催する総代会において前年度の活動報告と、新年度の方針を提案承認いただいています。								8	9								17
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		グリーンコープ共同体に法務部を設置し、相談体制を整えています。																16	
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		再生産可能な価格での取引をし、生産者・メーカーとの顔の見える関係作りに取り組んでいます。										10						16	
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		組合員組織が存在し、その中で専門委員会体制を取っており、食べ物、環境、福祉などそれぞれのテーマに沿った動き方をしています。																16	
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		グリーンコープオリジナル商品は組合員検討を経て全て組合員が承認した物です。それぞれの商品に企画書があり厳重に保護しています。								8.2 8.3	9							16	
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		「個人情報保護方針」を掲げ、遵守しています。ネットワーク関係ではG Cネットワーク(ローカル)で対応し、パソコンからのデータ抜き取りが出来ないように指定のUSBでしか抜き取り出来ないようにセキュリティを掛けています。ペーパーについては個人情報が入っている物については定期的に業者に依頼し溶解していただいています。																16	
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会全体)	●		組合員主権を貫き、組合員の意見を大切にしています。																16	17
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスメント・汚職・贈収賄防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる。		●						5			8		10		12	13	14	15	16	17
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画(BCP)を策定し、訓練や見直しを行っている。		●										9		11		13.1			16	17
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている		●									8	9								17
	11	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。		●		1	2			5			8				12	13	14	15	16	17
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。	●		ハラスメント委員会を設置し、被害者が声を上げやすい体制を取っています。				4.3 4.4 4.5	5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7	
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		年1回の制服の配布や、アルコールチェッカーの導入、休暇を積極的に取れる体制を整えています。			3					8.8									
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		非正規労働者には転勤がありませんが正規職員には業務の都合で転勤があります。営業に関する目標設定が違います。正規職員は将来にわたっての責任が発生するので同じ業種でも違いがあります。単純な作業については同一労働・同一賃金の原則は履行されております。					5.5			8.5		10.2 10.3							
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。	●		ワーカーズ型生協を目指し、ワーカーズが主体的に生協の事業を担っています。通常残業や休日出勤など月20時間以内を目標に個人管理しています。加えて、残業は残業命令が発出されなければ出来ないようにしています。			3		5.5			8.5 8.8		10.3							
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		グリーンコープ基礎研修と題して、座学や実践研修を行っています。				4	5.5			8	9								
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		日常的な上司から部下への声かけを充実させています。その上で、異変を感じれば、面談を行うようにしています。			3					8									17
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		「人と人との共生」を理念に掲げ、生活困窮者の就労訓練の受け入れも積極的に行っています。				4.4	5.1 5.5			8.5		10.2 10.3						16.7	
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。		●	全センターにweb会議の環境を整え、オンライン会議に活用しています。			3					8	9.1		11	12					
	20	【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。		●	日本イノベーション融合学会(IFSJ)主催のDX検定合格に向け、責任者位相が取り組んでいます。								8	9.1		11	12					
	21	【フライト企業】 ・フライト企業に認定されている。		●				3	4				8	9			12					

更新		SDGs達成に向けた取組みチェックリスト 事業者名:			グリーンコープ生活協同組合くまもと																	・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。																	(様式第2号)	
分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																																		
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17																		
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		廃棄物等は適切に処理を行っています。			3.9			6.3						11.6	12.4		14.1	15.1																			
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		全事業所をLED化し、電力使用量を削減しています。エコノートをつけることで各家庭での省エネに取り組んでいます。また、熊本県作成の簡易計算シートを活用し、エネルギー使用量を把握しています。2024年12月に電気トラック導入を予定しています。(2025年度の目標は2024年度比▲10%)							7.3						13																						
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		全センターのLED化によりCO2排出削減に取り組んでいます。また、二酸化炭素排出ゼロの自然エネルギーの「グリーンコープでんき」を使用しています。また、熊本県作成の簡易計算シートを活用し、温室効果ガスの排出量を把握しています。【予定】2024年12月に電気トラック導入を予定しています。(2025年度の目標は2024年度比▲10%)		2.4					7.2 7.3 7.a					12.4	13	14	15																				
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		グリーンコープのエコシュリンプ(エビ)の養殖を行っているインドネシアでマングローブの植樹に取り組んでいます。						6.6								14	15																				
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		4R(断る、減らす、再利用、再生利用)運動を展開しています。										9.4			12.2 12.4 12.5		14.1	15																			
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		合成洗剤の供給はしていません。せっけん運動を展開し、せっけんの利用普及に取り組んでいます。		2.4					6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5		14.1 14.2 14.3	15			17																	
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		ペットボトルを使用せず、びんやカンを使用しています。びんは回収し、洗瓶し、再利用しています。また、環境に配慮した商品を多数取り扱っています。										9.4		12.4 12.5	13	14	15																				
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。		●	店舗では「手前どり」を積極的に呼びかけています。また、共同購入はそもそも在庫をほとんど持たなくてもよいので事業所としては廃棄はほとんどありません。	1	2					6.4						12.3		14	15			17																
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。		●													11.6 11.7		13.1 13.3		15			17																
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善またはや再生可能エネルギーの利用や供給に取り組んでいる。		●	グリーンコープでんきをあっせんすることで、脱原発、再生可能エネルギーを増やしていくことに取り組んでいます。							7.1 7.2 7.3 7.a			9.4		11.5		13.1 13.3																					
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・“伐って、使って、植えて、育てる”の持続的な森林利用への取組みを推進している。		●								6			9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15																			
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。		●	グリーンコープのエコシュリンプ(エビ)の養殖を行っているインドネシアでマングローブの植樹に取り組んでいます。							6.1 6.3 6.6					11.3 11.4 11.5	12.2	13		15																			
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。		●	ペットボトルを使用しないなどプラスチック削減に取り組み、仕分け袋やトレーも回収しリサイクルしています。													12.2 12.5		14																				
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。		●	【予定】2024年12月末までに、トラック26台、軽自動車7台、合計31台のEV車を導入します。										9.4		11.2		13.1 13.3																					
	36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。		●	グリーンコープでは2027年までにカーボンニュートラルを達成する目標をもって取り組んでいます。したがって、4R運動、グリーンコープでんき、マングローブの植林、EV車の導入などあらゆることに取り組んでいます。							7.1 7.2 7.3 7.a			9.4		11.6 11.a	12.8	13				17.2																	

分類	No.	チェック項目	基本	チャレン ジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																						
製 品 ・ サ ー ビ ス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		商品仕様書を基に厳格に商品の品質を管理しています。第4次原料まで原材料を把握しています。			3.9						9			12.4					
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		商品開発においてユニバーサルデザインを意識しています。具体的には子供が使用しやすい包丁や、高齢者が脱ぎ着しやすい衣服などを取り扱っています。また、カタログの音訳CDを必要とされる組合員へ届けています。									9.1	10	11.7					17	
	39	【地域資源】 ・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。		●	グリーンコープ生協くまもと開発商品において熊本県産の産直青果を活用しています。		2.3 2.4					7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15		17
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。		●								7					12.2	13.1		15		
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。		●	2027年カーボンニュートラルを通じて、地球温暖化、気候危機、気候変動の課題について取り組んでいます。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に努めている。		●			2.3 2.4						8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15		17
持 続 可 能 な 社 会 ・ 地 方 創 生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		地域支援という意味において独自にサロン活動を展開しています。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	44	【防災、減災、レジリエンス(自助)】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。	●		年に一度の防災訓練を実施しています。				4							11.5		13.1			16	
	45	【防災、減災、レジリエンス(共助)】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。		●		1.5		3	4						10.2	11.5		13.1			16	17
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。		●										9		11	12	13.1				
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。		●		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	48	【インターンシップ等の受入れ】 ・職場体験、インターンシップの受入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。		●	中学校などからグリーンコープのSDGsの取組みについて講演の依頼があり対応しています。				4				8.6		10.2							17
	49	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。		●					4.4				8.5 8.6									17
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。		●			2		4.3 4.4 4.5				8.6		10.2		12	13	14	15		17